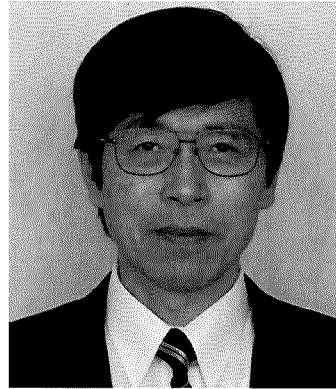


## 〔巻頭によせて〕

日本産業洗浄協議会 会長

**岡村 和彦**

(株式会社クリンビー 代表取締役社長)



日本産業洗浄協議会では、産業洗浄分野の最新技術情報を定期的かつ継続的に発信するため、2008年から「産業洗浄」誌を年2回刊行しております。この度、「産業洗浄」NO.18を、皆様にお届けすることになりました。現在、本誌は産業洗浄技術に特化した技術誌として日本唯一の定期刊行誌であり、今回の特集テーマは「表面処理洗浄」ですが、毎号特集を組み、その分野の第一人者の方々に執筆頂いておりますので、産業洗浄の現場でご活躍されているユーザー様には、最新かつ有益な情報をお届けできるものと確信しております。

ご存じのように、この産業洗浄分野は、この20年で革命的な変化が起きました。以前の産業洗浄には、フロンや塩素系溶剤がよく使われていました。それらは万能な洗浄剤がゆえに、洗浄技術は限定的で、洗浄機もパターン化されておりました。ところが、1995年のフロン、1,1,1-トリクロロエタン全廃を機に、代替洗浄剤や代替洗浄技術が次々と開発され、選択肢が広がりました。洗浄剤で言うと、水系、準水系、炭化水素系、溶剤系（代替フロン、塩素系、臭素系）と種類が増えました。洗浄機の洗浄方法・乾燥方法・周辺技術も多岐に渡っており、何を選ぶかで洗浄品質・処理能力・洗浄機価格・ランニングコストが変わり、それが製品の競争力を左右する状況になりました。

また、被洗浄物は、電子化・微細化の流れから、要求洗浄品質は年々高くなっています。さらに、地球温暖化防止、揮発性有機化合物（VOC）排出規制、化学物質のリスクアセスメントの実施義務化、労働安全衛生法の改正等、環境問題も年々厳しくなっています。

以上により、現在の産業洗浄に関わる技術者は、自社の製品に最適な洗浄剤や洗浄システムを模索するのに、幅広い知識が要求されるようになりました。

それらの要求に応えるため、日本産業洗浄協議会では、この「産業洗浄」誌の年2回刊行だけでなく、展示会、洗浄技術セミナー、年3回の洗浄大学、毎月のメールマガジンの発行などを行っております。また、昨年には「産業洗浄優秀新製品賞」を創設、さらに今年から「洗浄技術検定制度」を発足させるなど、積極的に日本の産業洗浄技術・ものづくり技術の発展に取り組んでおります。この「洗浄技術検定制度」は、現在第1回目の1級・2級の募集を始めておりますので、是非チャレンジください。

この「産業洗浄」誌が、皆様のお役に立つことを切に願って、私の巻頭のあいさつとさせていただきます。